

私たちの西地域

中津西
まちづくり
協議会



<https://nishi-machikyoo.com>

手賀野 (手賀野上区, 第1区, 第2区, 会所ヶ丘区)

駒場 (第3区, 後田区, 松源寺区, 大峽区, 共栄区, 第4区, 第5区, 西ヶ丘区, 大平区, 山手区, 桃山区, 第6区, 第23区)

2023

中津西まちづくり協議会総会 を開催

～R4年度事業・決算、R5年度の事業計画・予算・役員が承認されました～



中津川文化会館 多目的研修室での総会の様子 (来賓、区長、代議員、まち協役員が出席)

西地区区長会が主体となって昨年7月から「中津西まちづくり協議会」を設立、新年度を迎えたことから令和5年4月26日に中津川文化会館で初めての通常総会を開催しました。

規約により、西地区の区長や代議員と西まち協役員の出席で総会が成立。

来賓として、市の深津広樹定住推進部長や鷹見信義市議、榎松直子市議にも来ていただきました。

原善治会長は「地域の課題に気づき、焦らずゆっくりやっていくこと、そして部会員だけでなく多くの人と共有し、活動を伝えていきます。西地区区長会との両輪で一緒に考えていくのでよろしくをお願いします。」と挨拶しました。

議案審議の質疑では「事業報告にあった視察で参考になったことは何か?」、「計画が盛り沢山だが実施可能なのか。部会で絞り込んだらどうか?」、「収入は市の地域一括交付金となっているが、この先も受け取れるのか?」などの質問や意見がありました。

また、風流踊り手賀野連の後継者育成で困っており、西小の“連”とするためにまち協の協力が欲しいなどの要望も出されました。令和4年度事業・決算、令和5年度事業計画・収支予算が提案のとおり承認されましたので、役員会や各部会などで話し合いながら進めていきます。

..... 令和5年度役員 () 内は部会長



原 善治
会長



安藤史郎
副会長



田島雅子
副会長(住民福祉)



渡邊好夫
(総務)



齊藤祐三
(安全安心)



小川弘美
(文化スポーツ教育)



小栗 康
会計



輪湖明夫
監査

※この広報は市の「地域一括交付金」を活用しています

●西地区区長会の総会で令和5年度の役員が決まりました (敬称略)

会長：原 善治 副会長：安藤史郎・市岡良平 会計：輪湖明夫 書記：岡本幸宏 監事：北村忠夫

区長 (☆印は新区長です)

手賀野上区：早川和己
第2区：岡本幸宏
第3区：輪湖明夫
松源寺区：竹節 敏☆
共栄区：山口光司☆
第5区：原 善治
大平区：赤井 功
桃山区：加藤修己
第23区：長瀬猛夫



顧問

(市議会議員)：鷹見信義・榎松直子

第1区：安藤史郎
会所ヶ丘区：武藤正秀☆
後田区：市岡良平
大峡区：北村忠夫
第4区：佐藤光司
西ヶ丘区：谷口陽一郎
山手区：粥川正司
第6区：工藤裕司



● 中津西地区の「要望書」に対して市の回答がありました

西地区区長会と中津西まちづくり協議会が合同で地域のさまざまな課題を「要望書」としてまとめ、市に提出しましたが、主な回答は次の通りです。(詳細な回答は、各区長にお渡ししています)

① 拠点施設 (西交流センター (仮称)、サンライフ分館、手賀野公会堂) の整備と地域担当職員配置

⇒西交流センター(仮称)の整備は計画が無く、用地の確保は出来ない。

サンライフ分館のバリアフリー化やトイレの洋式化は、他の社会教育施設との優先順位のなかで検討していく。

⇒地域担当職員の配置は困難。集落支援員は西地区にも配置している。



サンライフ分館の一室がまち協務所

② 安全に暮らせる環境整備 (用水・排水路、青木斧戸線、避難所等)

⇒京田用水の伏せ越し要望は事業化に向けて検討する。宅地化の状況も踏まえ、排水路のバイパス施工の可能性はさぐる。

⇒青木斧戸線の南方延伸は事業化の予定は無いが、接する市道改良計画は順次実施する。沿線の遊休地の活用は地域と相談して検討する。

⇒市が開設する避難所は、各地区1箇所にしたい。

避難者や立地バランスを考慮し、西小学校を検討する。

⇒恵那市とのごみ処理広域化は、方向性が定まったら市民に周知する。ごみ減量の新企画を検討する。

⇒通学路の危険箇所を毎年、学校や警察、国県などと合同で点検しているが、地域からも危険箇所の情報提供をお願いする。現在では、歩車道分離はブロックではなく、より安全性の高いガードパイプを設置するように変更しており、歩道のグリーンベルトも優先順位で設置している。

③ リニア関連事業、その他

⇒東濃東部都市間道路は工事着手しているが、桃山橋～後田橋(桃山工区)の事業スケジュールは未定である。青木斧戸線と一体となって環状道路の形成や周辺道路の交通課題解消に整備効果の高い区間と認識している。

⇒市から依頼している各種委員の削減は、世帯数の減少や高齢化で自治会の課題と認識しており、活動実態や範囲、人数等の調査をして検討する。



R257 山手交差点付近

※昨年度の要望事項と市の回答内容については、地域版広報第8号(令和4年3月発行)を参照してください。

●令和5年度の中津西まちづくり協議会活動

今年度のねらいは、まち協が事業の組立てや枠組みをつくり、関係機関や団体・人をつなぐほか、各区などが必要に応じて実行できるように、多世代交流などの“応援メニュー”を用意して区役員の負担軽減や区民同士が知ってるという関係を増やすことにつなげることで、そして次年度への事前準備となる取り組みを進めることです。

《取組みの一部を紹介します》

楽しく多くの人に参加したくなる「防災イベント」の来年開催をめざし、円卓会議を設けて準備します。

(市の指定避難所を西小学校とするための取組みにもなります)



広域避難場所の運営状況と各区の防災士の把握を行います。

スマートフォンによる住民アンケートに取り組みます。



地域行事や団体などを把握して、まち協の活動につなげていくため、区長にアンケートをお願いします。

中津西まちづくり協議会のホームページに安全安心コーナーをつくります。



西まち協について 西まち協だより 西まちづくり事務所 地域学習資料 リニア 映像ライブラリー
防災・環境 域学連携情報 西まち協の動き お問い合わせ

希望される集会所(サロン等)へ機器・スタッフや講師を派遣します。懐かしい歌や風景写真、YouTube 動画などをお楽しみください。



西地域を歩いて楽しむマップづくりの仲間を募集中！(まち協役員や区長にお声がけください)

●中京学院大学教養ゼミへの協力

大学生が実際に地元企業等からの提案を受け、関係性を深め、自ら地域社会の課題解決策を提案することを目的とする「教養ゼミ」への協力依頼がありました。大学で取り組み課題を提示

西地区区長会が大学と連携の覚書を締結していますので中津西まち協も参加(市内6団体)することにして5月30日に大学で“ウォーキングマップ”作成という課題を提示。学生達から色々な質問が出て、真剣さが伝わってきました。今後は来年1月の最終発表と審査に向けて、指導助言(フィールドワーク、相談)をしていきます。実際に中京学院大の皆さんが西地域を歩いて、学生の感性で選んだポイントを入れたユニークな“おすすめマップ”を作っていたら、中津西まちづくり協議会のホームページでも見られるようになりますので、ご期待ください。



●西地区区長会と連携した環境活動の推進

市のごみ処理(焼却・埋立て)とリサイクル施設は駒場地区にあり、最終処分場が令和13年度頃には埋立容量が一杯となると考えられます。区長会連合会の地球温暖化防止に向けた取組みに合わせ、更なるゴミ減量化を進めていきます。



ゴミ出しルールを守ってください。

ペットボトルは、軽く水洗いしてね。



木箱コンポストで生ごみの減量に取り組んでいます。



市の「高齢者等大型ごみ戸別収集支援事業」の内容が見えます。

●「星ヶ見公園開発協会」が約半世紀の活動を経て解散しました

長い間、市から星ヶ見公園の管理を受託し、地域の大切な資源として公園と星ヶ見荘を盛り上げてきた星ヶ見公園開発協会は、令和5年3月の総会で解散議決を行いました。駒場各区からの役員選出や活動協力の負担、地域住民の愛着が薄れつつあることなどが背景にありました。



【星ヶ見公園開発協会と星ヶ見荘等の歴史：抜粋】

- S48 駒場財産管理委から財産等に移管して星ヶ見公園開発協会設立（市：不燃物処理場、ゴミ焼却場建設）
- S50 山林を購入（協会）⇒ S51 市が老人憩いの家建設 ⇒ S53 道路用地を購入（協会）
- S63 開発協会が土地や建物、車両など保有財産を市へ寄付し、市が建物を改造することで合意
- H1 市が出資する第三セクターの(株)星ヶ見を設立（社長：市助役）⇒ H16 市が撤退
- H4 「星ヶ見音頭」発表会

※以後、駒場各区の代議員（区長）をはじめ住民の協力を得て、公園の下刈りや清掃などを行ってきました。
 ※協会の収入であった石山還元金がなくなり、市からの公園管理委託金のみになっていました。

●今のまち風景 「西幼稚園」と「メタセコイヤ」

中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画が、子どもの減少に見合った見直しにより変更されました。このことから“中津川・南・西幼稚園を令和6年度に統合し、南幼稚園を「中津川幼稚園」と名称変更して、公立で運用する”ことになりました。



昔の西幼稚園（参考）



現在の西幼稚園



西幼稚園前のメタセコイヤと西小

●今のまち風景 新しくなった「尾崎踏切（JR）」

以前から地域の要望や通学路の安全点検で“踏切に歩道がない”として危険が指摘されていた JR 中央線の尾崎踏切は、道路が拡幅されて新たに歩道も設置されましたので、ようやく4月中旬から安心して通行できるようになりました。



昔の尾崎踏切（参考）



改良前の下校風景



改良後（一部工事中）